

活動予定

6月

- 6日 喜連川社会復帰促進センター薬物離脱指導
- 9日 東京保護観察所プログラム
- 10日 黒羽刑務所薬物離脱指導 アル研準備委員会 那須岳登山
- 11日 岡本台病院カンファレンス 再乱用防止教育事業県南
- 12日 岡本台病院プログラム
- 13日 喜連川社会復帰促進センター薬物離脱指導
- 14日 家族教室
- 15日 ソフトボール同好会
- 17日 黒羽刑務所薬物離脱指導
- 18日 県立小山南高等学校講演 宇都宮保護観察所プログラム
- 20日 喜連川社会復帰促進センター薬物離脱指導 再乱用防止教育事業県北
- 21日 RSC
- 22日 RSC
- 23日 東京保護観察所プログラム
- 24日 日光市立大沢中学校講演
- 28日 MA よこはまセミナー

7月

- 1日 黒羽刑務所薬物離脱指導
- 4日 喜連川社会復帰促進センター薬物離脱指導
- 8日 黒羽刑務所薬物離脱指導 アルコール問題研究会
- 9日 再乱用防止教育事業県南 筑波大学森田先生によるプログラム
- 11日 茨城ダルク講演 喜連川社会復帰促進センター薬物離脱指導

施設報告

那須 TC (初期・断薬) 19名 宇都宮 OP (後期・社会復帰) 15名
那珂川 CF (中後期・農作業) 16名 ピースフルプレイス (女性) 7名
計 57名で活動しております。各々の施設で役割を持ったプログラムを実施しております。

編集 特定非営利活動法人栃木DARC

〒320-0014

栃木県宇都宮市大曾 2-2-14 形松ビル 3F

TEL 028-650-5582 FAX 650-5597

URL <http://www.t-darc.com> Eメール:nesm@t-darc.com

SSKO

栃木ダルク

ニュースレター 第134号(2014, 6,5)

Grow up!!!

Drug Addiction Rehabilitation Center
DARC

今は今、昔は昔

栃木ダルク 栗坪千明

先日、同業の仲間たちと話をする機会があった。そこで話題になったのは、回復の多様性。少し難しい気もするが、私がダルクに入寮した17年前には、この発想はなかったように思う。

その頃は、良くも悪くもとにかく全ての精神作用物質をやめるということだった。おかげで私も入寮と同時に、病院で出されていた眠剤や安定剤を切ってプログラムを受けた。とにかく完全クリーンを目指すというものだった。病院で処方されている薬を飲んでいる人の方が少なかったように思う。それが、12~3年くらい前から、これは医療機関の考え方が強く影響していると思うが、離脱期の不安定な状態は、命に関わることでもあるから。いきなり全ての薬をやめるのは危険だという考え方をするようになり、私たちの支援の仕方も変わってきた。ダルクの知名度や社会のニーズも高くなり、様々な利用者がやってくるようになった。重複障害の問題なども、その都度勉強して、なんとか対応してきている。

私たちの提供するサービス(プログラム)も不足を補う形ではあるが日々進化しているように思う。運営の面においてもサービス提供者として、その対価を受け取っている側面から整備をしてきた。スタッフのスキルもそれに応じ上がってきている。

ふと思う時がある。昔のいろんな意味でシンプルな頃も、それなりに自由でよかったなど。だが、今は今の状況に備えなくてはならない。



発行所

郵便番号一五七〇〇七三 東京都世田谷区砧六―二六―二一
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価100円